

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3191400120		
法人名	社会福祉法人 福生会		
事業所名	グループホーム 仁の里		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田108番5		
自己評価作成日	平成30年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571		
訪問調査日	平成30年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域と共に喜びを育むこと」という理念のもとに、住み慣れた地域で生き生きと生活できるよう、地域交流会やご近所同士の馴染みの関係を築きながら、少人数であるメリットをいかし、家庭的な雰囲気を持っています。福生会祭りや交流会での舞台発表・運動会では、皆でできる事の満足感を味わい、笑顔が見られています。ゆったりと、時には手芸や語り、歌クラブとボランティアの方々の協力もあり、賑やかにおしゃべりをされ楽しく暮らされています。又、母体である三喜苑との連携・協力もあり、行事への参加・災害時の避難受け入れ等安心して生活されています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の資源としてラドン温泉を活かし、ゆったりと温泉を楽しむことが出来る。玄関前には足湯の設備もある。法人が行う研修会は、テレビ会議で行い、全員参加である。都合により参加できない人は、録画ビデオで個々に研修して、ケアの向上に努めている。事業所を開放して地域交流会を行ったり、近くの畑で野菜を育てること等で、地域と楽しく関り、馴染みの関係継続が上手くできている。利用者は月に1度、理学療法士によるの指導を受け、身体機能が低下しないよう体操を楽しむなど、個々に沿ったケアを受けている。急な体調の変化や災害時の避難、行事や外出支援等は、日常的に同法人の三喜苑と連携・協力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★ 努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の引き継ぎ時に理念を皆で復唱。地域に助けていただいているということを忘れずに、馴染みの関係が継続できるよう努力をしている	毎朝の引き継ぎ時に理念を皆で唱和している。「地域と共に喜びを育むこと」という理念のもと、利用者が住み慣れた地域で、馴染みの関係を継続しながら、生活できるよう支援している	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に根差した施設を目指し、地区の一斉清掃(総事)にも参加。地域交流会や認知症カフェ(わらわあ会)も定期的に行い地域の方と自然なお付き合いが出来るよう努めている	事業所は一軒の家として、地区の一斉清掃等に参加したり、行事を企画し、地域にチラシを配り多くの人と交流できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流会・法人の行事を通して歌の発表、作品展等で支援により様々な事が出来る事を知って頂くと共に気軽に相談できるよう関係性を継続できるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催し、入居者の状況や行事、事故、苦情を報告。事故対策等意見を頂いた事を職員間で共有、再検討しサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行政、地域、利用者及び家族の人が参加し、行事や利用者の様子、事業所の状況等説明し、意見交換している。会の意見は職員間で共有してサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な運営推進会議の参加にて事業計画評価報告や施設状況を知っていただくと共に認知症カフェの相談や協力をあおんでいる	運営推進会議で、事業所の様子を伝え、お互いに協力関係が出来ている。認知症カフェ「わらわあ会」の呼びかけなど協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としても身体拘束を行わない事としている。定期的に身体拘束委員会を実施し、状況報告やマニュアルの確認・研修を実施。玄関の施錠については、不審者対策により19時から翌7時は施錠し、用事のある方はモニター付き玄関チャイムにて対応	身体拘束委員会を中心に、身体拘束チェックシートで、1か月ごとに確認している。職員は身体拘束の内容を正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。現在センサーマットを使用している利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修の機会に参加し、認知症の方への知識や対応の仕方を共有。何気ない言葉かけにも注意し合えるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についても苑内研修を行っている。現時点ではその対象者はいないが必要に応じて対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は口頭で説明し、納得いただいてから契約を行っている。又、利用料等追加・変更等があった場合は文章でお知らせし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の廊下に苦情・意見箱を設置。又年1回(昨年は11月)にアンケートを行い、結果についても職員間で話し合い、運営推進会議やご家族へも報告し改善を行っている。	苦情・意見箱を設置しているが、意見・要望が少ない。年1回家族アンケートを実施して、意見・要望等の把握に努めている。結果について職員間で話し合い、運営等に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中や各委員会でも意見を聞き取るよう努めている。又毎月のミーティングや朝の引継ぎ時にも職員の提案や意見を聞き、運営に反映させている。	★日常的に職員が意見を言いやすい雰囲気である。また、月に1度のミーティングでは、ノートを利用して、職員全員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の課長面談にて個人の目標達成の度合いを評価し、要望や悩み事等、言いやすい関係作りをしている。趣味や特技を活かした仕事(担当)を振り分けやりがいが持てるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を提示し、自由に参加できるよう研修の機会を設け、専門性の高い介護の提供が出来るよう支援している。(認知症・痰吸引・レク研修等) 外部研修に1回は参加との目標もあるが積極的な参加が見られている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内福祉施設の交流会の参加によりお互いの情報交換や良い所を取り入れ、サービスの質の向上に努めている。又認知症カフェや挨拶運動の際にも情報共有できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネによる情報提供や事前に訪問等行い、要望や相談事に対しても、統一したケアを提供し、安心して生活して頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者、ご家族の立場を理解し相談や要望を聞きサービスの提供にいかしている。又、面会時にも定期的に状況をお伝えし、不安感を与えないよう心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望をしっかり聞き、想いを受け止めた対応・サービスに努めている。医療が必要になった場合等、連携施設や他事業所等への支援がある事も説明		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に体操をし、調理方法や畑の野菜の収穫時期等教えて頂きながら、職員も家族の一員としての関係性を保ちつつ、自立支援へも心掛けた関わりを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌に日々の様子も合わせてお知らせし、行事等の参加の呼びかけを実施。又、普段は職員が付き添っている通院も時にお願ひし、ご本人との時間を作っていただいている。又、定期的な食事介助の関わりあり		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の入所先のご利用者との関係・学校の先生等、同法人での行事への参加を兼ねた面会や、ふるさと訪問にて墓参りをされたりと希望に添った関りが出来るように心がけている	家族の協力をえながら、馴染みの美容院へ行ったり、ふるさと訪問では、数時間家へ帰るなど、個々の希望に応じている。以前からのかかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士でも好き嫌いがあり、又以前の馴染みだった関係や性格も考慮しながら席替えを実施し、良好な関係が築けるよう職員が声かけや見守りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に行かれ行事等でお会いしたときには声をかけ様子を伺っている。又入院退居されたご家族への他施設への紹介や、退居家族からの定期的な野菜の頂きものには感謝。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、ご本人の意向を把握、確認し外食や行事参加等、個別な関わりを設けるようにしている。帰宅願望のある方へは、故郷訪問やドライブに出かけている	職員は、日頃の関わりの中から個々の思いをくみ取ることを、心がけている。利用者との会話からキャッチした情報は、担当者に伝え、外出計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のケアマネからの情報やご家族・ご本人からの生活歴や家族環境等、プライバシーに配慮した上で、職員間で把握する共に、個別ケアに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日々の過ごし方は違っており、本人の意向を尊重し、能力に見合ったお手伝いをして頂いている。日々の状態もケース記録に記入しミーティングでも職員間で共有できるよう話し合っている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人からの希望や現状の課題を担当から意見をもらい仮プランを作成。その後、ご家族からの意見をいただき(遠方の方は仮プランに記入)プランを作成。毎月評価を行い、見直しをしている。	毎日経過観察表に、くらしの様子や気が付いたことを細かく記録している。それにより、毎月評価を行い、6か月ごとにプランを見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、観察表、連絡ノートに個人の状態や状況が記録されており、職員は出勤時に状況を確認する事にしており、情報の共有を図っている。又、ミーティング時に話し合ったものは、プランに反映するようにしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症デイサービス(共用型)ご家族の急な用事等により早い時間でのご利用者の対応等、出来る事は柔軟な対応に心がけている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力や様々なボランティアの受け入れをし、変化のある生活を楽しんでいる。又、町老人スポーツ大会に参加し運動会を楽しまれた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族との相談にてかかりつけ医を決めており、定期的な受診を実施。ご家族対応での受診をされる場合、ホームでの生活が分かりやすい様に口頭又は状況表を渡し説明している。	個々に入居以前からのかかりつけ医があり、支援している。家族対応の場合は、「通院状況表」を使い、適切な医療が受けられるように、情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の特養看護師に特変時や体調の変化があった時には、いつでも相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室を通して、早期退院につながるような退院時の対応を含めた相談や入院中には定期的に洗濯物を取りに行き、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末期の対応、希望については契約時に説明している。看取りは現在行っていないが、かかりつけ医との連携、協力も得られるよう早い時点での相談も行っている。	現在は、職員の体制が整わないため、看取りは行っていない。利用者、家族とはその都度「意向確認書」を交わし、希望に沿った関わりができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法等の講習をほぼ、全員が受けている。事故や急変時の対応、連絡体制についても分かりやすい所に貼り、周知するよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害については消防訓練内容をもとに職員に周知し4か月に1回程度の定期的な避難訓練を実施。地域消防団を交えた訓練は昨年11月に実施。山田区・町より9名参加あり	★地域消防団を交えた総合訓練、夜間想定訓練、地震訓練など、定期的に避難訓練を実施している。火災報知機の操作も、全員が周知している。「避難準備・高齢者等避難開始」となった場合は、速やかに同法人三喜苑の協力を得て避難している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々での想いに添った対応や言葉使いについて、優しい言葉かけをするよう心掛けている。又職員間で接遇チェックを行い、常に見られているという意識を持ち、ミーティング時に評価確認している。	サービス向上委員会を中心に、接遇に取り組んでいる。接遇チェック表があり、毎月個人評価を職員間で行い、利用者一人ひとりの尊重とプライバシー確保に努めている。	個人評価の目的を、職員全員が理解・納得して、接遇向上に繋げたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、入浴時の衣類を選んだり、お盆やお彼岸が来ることを伝えると、墓参りを考えられたりと希望を引き出せるよう、言葉かけを行い、ご家族への協力を仰いでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースで生活して頂いている。それぞれの生活歴があるように、生活リズムも違う為、起床、食事の時間やレクレーションへの参加等、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外食や買い物等、季節感に考慮しつつ、一緒に選んでいる。祝典、外出・発表時には化粧をする機会をもつよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜と一緒に収穫し、メニューの相談・時に昼食作りを一緒に実施。味付けまでお願いすることもある。能力に応じて食器洗い等の後片付けも一緒に行っている。	★利用者が育てた野菜を献立に取り入れたり、一人ひとりの力を活かしながら、皮むき、味付け、片付け等食事作りに関わってもらっている。職員は、楽しい食事時間になるよう話題を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の少ない方へは医師と相談し、補助食品を提供。又量が多いと、最初から手をつけられない為、普段からの食べられる量を把握しその人にふさわしい量を盛り付けるよう心掛けている。水分摂取に関しては器を変更し対応		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけを行い、自発的にされている。介助の必要な方へは不穏になられない様に注意しながら介助を行っている。義歯洗浄も同様		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔が長い方へは声をかけ、失敗のある場合はさりげなくパット交換を行い羞恥心のないよう配慮している。夜間帯に3名おむつ交換の方あり	さりげなくトイレに案内し、失敗が無いよう支援している。夜、ポータブルトイレを使用する利用者があり、安全に排泄できるよう見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	観察表により毎日排泄をチェック。排便困難な方、2名は寒天を使ったお茶ゼリーを作り、便秘対策として提供。その他、トイレに座っていただくことで排便につながることもある為、トイレ誘導・マッサージの実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～4回の実施。入浴チェック表をもとに、入られていない方への声かけをするが、本人の希望や時間を聞き対応。歌を歌われたりと、1人1人がゆったりと入れるよう心掛けている。	温泉が引かれていて、利用者はゆったりとした浴槽で、入浴を楽しんでいる。入浴チェック表を活用し、週に2回以上は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の午睡は自由とし、ソファで休まれる方もある。体操、散歩、足湯をしたりと日中の活動を増やし、夜間の安眠につなげ、その人にとっての眠りやすい室温、寝具に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬情報も各自のファイルに添付。又薬の変更があった時は様子を記録に残し受診時に情報提供できるようにしている。毎食事に飲まれる薬を都度箱に用意し2人で確認のもと服薬介助。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食器洗い、野菜の皮むき、盛り付け等ご自分の出来る仕事を決めておられ、進んで作業をされる。歌クラブでの発表や野菜収穫・ドライブ等の外出をし気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じて、畑や近所への散歩、買い物、個々での外食等に出かけている。外泊までとはいかないが、お盆の墓参り・餅つき等ご家族の協力のもと長時間の外出となっている。毎月の外出行事も計画し全員又は個々で参加できるように心がけている	天気の良いときは、歩行困難な利用者も車椅子で、みなと一緒にホーム周辺を散歩している。近くの畑に作業に出掛けることもある。毎月の外出行事以外にも、家族の協力を得て、墓参り・餅つき等長時間外出する人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理できる方に関しては、所持していただいているが、買い物等での支払いは同行している。又預り金がある方に関しては、出納帳をつけ、支出状況をご家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけてほしいという希望やご家族からのプレゼントのお礼の電話等、随時対応支援している。誕生日プレゼントのお礼はがきを作成しご家族へも送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共有スペースには季節の花や手作り作品を飾り、不快な思いを抱かれない様、匂い・掃除にも心掛けている。ゆったりと過ごせる明かり、音楽に気をつけながら生活して頂いている。居室で過ごされる場合は、それぞれの心地よい室温がある為確認している。	玄関は、落ち着いた家庭的な雰囲気を感じられる。居間は、天井が吹き抜けで広がりを感じ、採光や室温にも気を配り心地よい。浴室・トイレも掃除が行き届いている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置し気の合った入居者同士でくつろげる場所となっている。又話し好きな仲間同士でテーブルを囲んで団らんされる姿もある。時には居室に戻られ読書をされる姿もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に愛用されていたダンスや寝具を持ってきていただいたり写真を飾っている。居室の飾りもご家族がされる方もある。又転倒の危険も考慮しご家族と相談し環境整備を行っている	家族にも協力を得て、使い慣れた馴染みの家具等が持ち込まれている。ダンスの上などには写真が飾られ、それぞれの利用者の居心地よさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、狭い空間でもつかまり歩行が可能な椅子やテーブルの配置となっている。又居室には、本人の状態に合わせて家具の場所や手すりを置き安全に心掛けている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	職員間でも接遇に日頃から気をつけており、毎月個人評価を職員間でおこない、利用者一人ひとりの尊重とプライバシーに努めているが個人評価をすることが苦痛になっている職員もある。	個人評価の目的を職員全員が理解・納得して接遇力向上につなげていく	接遇チェック表(自分自身)・介護の声掛け態度の評価(他者)が重なったことで負担に思われた職員もあった。しなければならない事・基礎的な事との認識を再度ミーティングで話し合い、接遇力向上に努めていく 継続することが大事である	1か月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。